



第158号  
 発行所 上高井教育会  
 発行人 上高井教育会長  
 小林 謙三  
 編集人 会報編集委員長  
 黒岩 幹夫  
 印刷所 須坂新聞社

特集

# 継続実践の発表 第15回研究発表会 第14回女教師研究大会

十一月二十七日(出)、須坂小学校視聴覚室において、第十五回研究発表会が開催されました。

本研究発表会は、会員が普段の研究成果を発表することを通して、自己錬磨に努め、会員相互の資質の向上に寄与するべく役目を担っている。

今年度も昨年同様三名の先生方に発表していただいた。発表者は「成就感の持てる組体操の指導」柏木茂幸先生(仁礼小)、「私の音楽指導から」市村裕子先生(高山小)、「中国視察旅行から」牛山通高先生(東中)であった。柏木先生と市村先生からは日々の教育実践の中から発表をしていただき、運動会と音

楽会に嬉々として取り組む子どもたちの姿が見えるようなお話をした。また、牛山先生からは、日中友好長野県教育者訪中団員として参加された体験をお話していただいた。

また、十二月七日(火)には、同じ須坂小学校視聴覚室を会場として、第十四回女教師研究会の報告がなされ、さらに、二名の会員による意見発表が行われた。「出会った人々から学んだ

こと」浜和子先生(森上小)、「私の体験談ー民間企業から教職を選んでー」西沢美代子先生(高山中)であった。それぞれ日々の教育実践と所感を発表していただいた。

## 私の音楽指導から

市村 裕子



高山小学校にお世話になって二年目になります。村の子どもたちは、明るく、そして素直です。

音楽の教師として、日頃子どもたちに願うことは、「もっともっと自然に触れ、季節の美しさに感動できる子、そして、その感動を体で、心で表現できる子であってほしい。」

という事です。♪うさぎ追いつし、かの山♪この「ふるさと」の曲も子どもたちに、ぜひ歌わせたい曲の中の一つです。

教材も、高山小独自のものです。子どもにとって、身近なものであり、追求できるもの、美しいなあと感じました。そして、昨年度、伊藤温先生

らヒントを得、「はばたけ鳥」を歌いました。全校合唱が終わると、伊藤先生が、「この曲は、はばたけ鳥なのだから、はばたくような隊形にしましょう。」と、言われました。

私の頭の中では、まさか飛ぶのでは? 10分以内でできるのかなと、一瞬不安にかられました。が、先生は、「六年生は、ギャラリィに、一年生から五年生は、半円に広がってください。」と、指示されました。六年生が、ギャラリィに、一年生が、半円に並び、と、一列で、拍手しましょう。」とほめていただきました。立

生(元上越教育大教授)の音楽指導での課題「シューベルトを歌いなさい」を重点をおいて、音楽会の選曲をいたしました。選曲と、音楽会までの練習過程、伊藤温先生のご指導のなかから、二・三お話をさせていただきます。

十月十四日は先生、子どもたち、専科が一番緊張する日、伊藤温先生の音楽指導でした。今年、全校音楽も聴いていただけでした。曲目は、校歌の中に出てくることば「はばたくわれら」かみを「暗い空には、星ふたつ」と、また、一羽だけになってしまった……を「雪みたいに、真白い、綿みたいにあったかい。」と実感としてのとらえをしています。作曲は、滝澤忠男先生にお願いしました。長調、短調、長調の三つの曲にまとめていただきました。子どもたちにとって、短調の所は、死んだ時の様子が思い出され、涙ぐんだようでした。伊藤先生から、大きな課題をいただきました。来年は、オペレッタをと。

体的な隊形は、視覚的にも音楽的にも奥行きと幅を感じさせました。

六年生全員による「山のいぶき」のご指導において、男子N君の「伊藤先生、よろしくお願いします。」を聞かれて、「その声でわかった、もう歌を聴かなくてもよい。」と、おっしゃいました。また「山のいぶき」は、高山にマッチしており、選曲が良かったと話されました。この曲は、子どもたちが、一番感動した終楽章から始めた曲である。最後に何度かくり返し練習し、曲のフィナーレを歌いこみました。

三年生の学級では、飼育しているうさぎの物語の創作活動をするにしました。子どもたち自身が、ステキな詩を作ってくれました。二羽のうさぎが死んでしまった悲しみを「暗い空には、星ふたつ」と、また、一羽だけになってしまった……を「雪みたいに、真白い、綿みたいにあったかい。」と実感としてのとらえをしています。作曲は、滝澤忠男先生にお願いしました。長調、短調、長調の三つの曲にまとめていただきました。子どもたちにとって、短調の所は、死んだ時の様子が思い出され、涙ぐんだようでした。伊藤先生から、大きな課題をいただきました。来年は、オペレッタをと。

(高山小)

# 子どもが成就感を持てる組体操の指導はどうあったらよいか

## 柏木 茂幸



組体操。運動会の花とも言われるこの種目に魅力を感じているのは、私だけではないでしょう。高学年における整然としたダイナミックな演技は観ている者を引きつけ、感動を呼ぶのです。体育の領域での、この組体操の位置づけは明確ではないのですが、私は体操・表現の領域に含まれると、とらえています。

では、組体操の取り組みをする上で何を考える必要があるのでしょうか。私は、まず子どもたちにとって価値あるものにすることが重要だと考えます。組体操は、①体が震えるほどの緊張感を感じる場面②最高に集中力を高める場面③友だちとの協力・思いやりを学ぶ場面④いろいろな体の動きや組み合わせを学ぶ場面⑤筋力調整力・持久力・俊敏性を高める場、この五つの価値体験の場であると考えるのです。

そして組体操の取り組みの中で、「僕はやりぬいたんだ」「私だってやればできた」という高学年として今まで以上のより大きな成就感・満足感を味わってほしいと願っています。

そこで、子どもたちが意欲的に取り組めるように、今までの組体操からの発想の転換をはかり、指導において、いくつかの工夫を取り入れたのです。①組体操におけるテーマの設定②バノクに音楽を流す③動きのあるものを含め新しい技を取り入れる④隊形や動きを図に示し、め

あてて記入させる⑤動きを六年生が示す⑥VTRで動きを見せる、等がそれです。

練習開始の子どもたちの作文には「今日から組体操の練習が始まる。今日は昨年とは違った技もやるから楽しみだ。小学校最後の運動会、絶対がんばって、いいものにしてあげたい」とありました。実際に始まってみると、「重くていやだ。上の人が変な所に乗るので、背も声を出してしまおう。長い時間肩車をしていると、だんだん重くなるので大変だ」という感想も前半多く聞かれました。しかし、中盤から後半には、この声が多くなり、後半には、バッグに音楽を入れ、場面ごとの練習に入ったあたりには、集中力の高まりも見え

一つひとつの動きに自信を持って取り組み始めていました。また下の子が痛くないような所を探して乗ったり、上に持ち上げる時に自然と声をかけたり等の支え合いも多くなってきました。そんな練習の中で、子どもたちはいろいろな工夫や苦労を経験し、困難な状況を克服し当日を迎えたのです。「いよいよ本番です。笛が鳴り、かかとから手の指先まで、すじが切れるほど伸びました。集中してやれば足の痛さも忘れてしまいました。技をやるたびに拍手がもらえ感動して泣いている人もいました。みんな、天までとどけ、と言った時は胸がジーン

としました。帰ってお母さんに聞くと「すごくよかったよ」と言ってくれて、私はとっても言葉に言い表せないくらいすごくうれしかった。今年も小学校最後の最高の運動会でした」「こんな作文が子どもたちから出されました。

子どもたちが、成就感を得られた要因として①組体操の魅力あるものになった②動きを目を向けさせた③限られた時間での切迫感が集中力に結びついた④相互の励まし合い支え合いを持たせた⑤子どもの実態を考えた動きの構成、等が上げられると考えられます。これらは、すべて組体操の持つ価値へとつながるものであり、子どもたちはその価値に触れたととらえられます。

運動会の種目の精選の傾向がある今日、私が何を子どもたちに与えればよいか、何が子どもたちを大きく成長させる場となるのか、何がいつまでも心に残り、生きる力となりうるのか等の見極めのむずかしさを感じながら、夢のある達成感・成就感の持てる組体操を子どもたちと共に創り上げていきたいと思うのです。(仁礼小)

※牛山通高先生(東中)の「中国視察旅行から」の発表については、会誌「上高井教育」第50号に掲載しますので、ここでは省略させていただきます。

# 平成5年度上高井教育会研究発表会を聞いて

田村 啓一  
「数量化されるものの価値を学習者自身がしっかりと体験して知る必要がある。美しいものを見て美しいと感じる感受性は、教えられるものではない。自分で体験しなければならぬ。それを味わいつくすことは、量ではない、質を体験することに属する。」

今回、教育会研究発表会において優れた発表をされた三人の先生方の言葉から、ここに引用した中野孝次氏の著書の一節が鮮やかに思い出されました。

# 参加者の声

## 研究発表会に参加して

田鍋 隆行

音楽会等の学校行事が一段落し、各種集会在企画されるこの時期ではあるが、研究発表会へは毎年参加している。明日の教室で即活かせるような話が聞けるからである。今年も三人の先生方の貴重な実践をお聞きした。どの発表からも学ばせていただいたのだが、その中から柏木先生の組体操の発表から、学ばせていただいた一端を書く。

さほ、時間の制約や危険防止から教え込む指導になりがちな組体操を、児童の意識を最大限取り入れようとした姿勢にあると思う。テーマは設けても各技にまで浸透させることは難しいが、児童が常に「天までとどけ」を持ちながら主体的に取り組んでいた。これは、音楽や新しい技を取り入れて子どもたちの意識を盛り上げたり、それぞれの技に対するめあてを具体的に書かせるなど工夫されたことが児童を能動的にさせたのだらう。ぜひ、来年度の運動会でも取り入れたいと考えている。(旭ヶ丘小)

### 女教師研究大会意見発表

## 民間企業から教師を選んで

### 西沢美代子

私は昨年までは民間企業に勤めており、教員になりたいという気持ちはずっと持っていたのですが、一度入った会社を辞め新しい道へというのとはなかなか決心がつきませんでした。しかし、これからも働き続けるのならより自分の願う仕事という気持ちから去年、転職をしました。

学校現場へ来て強く感じていることがいくつかあります。一つ目は、学校には感動することがあるということでした。以前、講演会の後の職員室で「いいお話が聞けて、感動したなあ」とおっしゃっていただいた先生がおられ、私はその言葉がとても新鮮に聞こえたのです。前の会社にいた時は、スキルアップとか自己啓発という言葉は使われましたが、そういう言葉は使われなかったが、感動するとか学ぶとか自分を高めようというところは久しぶりに触れた気がしました。

また、先生というのは自分が勉強をすれば、それがいつか子供たちに返せるのだというところを感じました。自分自身も今、勉強していることが楽しいのですが、そのことをうまく子供たちにも伝えられればいいのですけれど、なか

なかでできません。

次に、あたりまえのことですが、今の仕事は日々成長していく人間を相手にしているということなんです。会社という組織は、いかに効率よく売上をのばすか、いかに儲かるかが目標です。もちろんそのおかげで従業員の生活があるのですが、当然なのですが、それが学校との一番の違いだと感じます。しかし人間を相手にしているから面白いのだと思います。だから大変だということもつくづく感じているこの頃です。

それから、女性として働くための待遇に恵まれていると感じます。これは、より良い社会を目指して互いに培ってきてくれたからで、とても感謝しなければと思っています。育児休暇がとれるなどの点をはじめ、それ以外の普段の面でも、まわりの先生方が助けてくれる現実があります。これはどの職場と比べても一番恵まれていると思います。

私は今年一年目で他の先生方と比べ、校務などの面でも楽をさせていただいています。二年目からはそうはいかないでしょうし、仕事が嫌

になったりすることも多くあるのではと覚悟しています。そんな中で私が子供たちに伝えたいと思っていることは、現在の社会が否定できない学歴社会であるけれども、人間は学歴では判断できないということなんです。

会社には、大学卒、高校卒、専門学校卒といろいろな人がいました。同じ年齢でも昇給のばやい人、遅い人と学歴によっても明らかに違いがあります。けれども、そんな人たちが

を見ていて私が学歴では人を見ることができないということを感じていました。学歴に、関係なく真面目に、謙虚で、ひたむきに努力しており尊敬できる人たちに会えることができた。本当に大切なものは、その人が今、どんな生き方をしているのかだと思います。私も子供たちに大切なものを失わないように、正しい価値づけができる人間になれるよう、指導ができれば、と思っています。(高山中)

## 出会った人々から

### 学んだこと

### 浜 和子

今年の四月から森上小学で養護教諭としてお世話になってます。市街地での勤務は初めてであり不安もありましたが、子どもはどの地の子どもも同じでした。

昔懐かしい鼻たらし小僧やパンツの中に大便をして保健室にきた子に「このくそー」と思いながらもお尻をお湯でふいてやりました。また一年の教室の前庭に大きな羨ましいような大便とちり紙に、「幸運と福の神がおいていった、たいていそうめたいお土産だわい」と、腹を立てないようにならうと思いつき砂をかけた。古今東西どの子どもたちもかわりないように思うこの頃です。

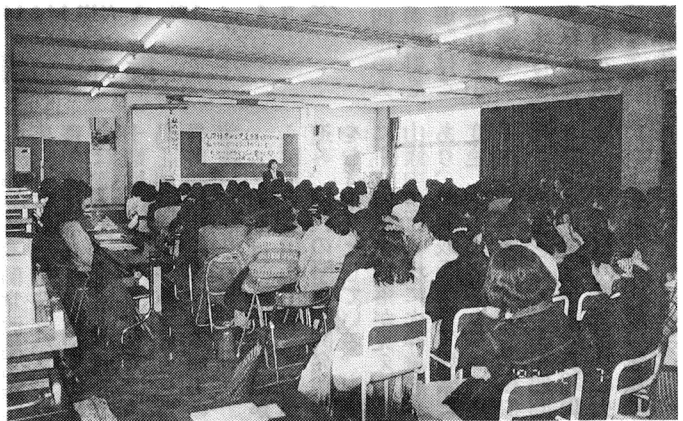
私の初任地は上水内郡の小

次に豊洲小学校に来ました。ちょうど旭ヶ丘小学校と分離した時で、残った先生方を中心にみんなまとまって新しい豊洲小学校を築いていくという力強い気迫に満ちていました。職員会などでは、いろいろ思っていることや不満に思っていることなどお互いに分かり合えるよう意志の疎通を図り、明るい職場をつくらうと努力したことを思い出します。

私はここで人を思いやり人を大事にすることを学んだ。次に栗方丘小学校にお世話になりました。当時32学級の大きな学校で「我以外は皆師なり」ということを強く感じ、ここで接した大勢の先生方や保護者、そして子どもたちからたくさん学んだ。

初めて出会った特殊学級の様々な障害を持った子どものお母さん方からは、私が逆に励まされるが多かった。わが子を思う親としてあるべき姿を教えていただいたように思う。

また学校での事故やけがに際しては、親のわが子を思う気持ちや心配は計り知れず、他人には想像できないものがある



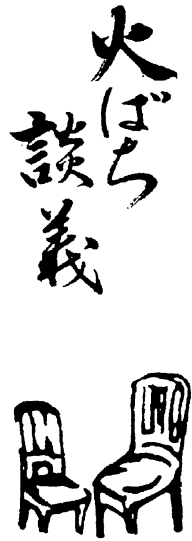
おのこの花の

手柄かな (芭蕉)

野に咲く花はみな美しい。それぞれにみんなよき、美しさを発揮し、比較することはできない。

私たち、子どもたちもみんなそれぞれに素晴らしいよきをもっている。そのよきを認め、ほめ、伸ばしていきたい。そしてみんなのよきを取り入れ吸収し、一回りでも大きく成長していきたいと思っています。

(森上小)



# 本田、そしてホンダ

松井 誠彦

11月に行われたオーストラリアグランプリで、今シーズンのF1が終了した。南アフリカから始まり、全16戦のパトルが繰り広げられたが、どうも今年のF1は魅力に欠けていたように思う。

その理由は簡単である。なぜなら、私の大好きなホンダエンジンを搭載したレースカーが走っていないからだ。去年までは、マクラーレンホンダがイルトン・セナをドライバーにして大活躍していたが、ホンダはF1の頂点に立ってすぐに撤退してしまっただけである。ホンダらしい。私がホンダを好きなのは、単にエンジンが素晴らしいというだけではない。故本田宗一郎氏の生き方や思想に、たいへん感銘を受けたからなのです。

『ドリム号』の生産に着手した本田氏は、外国の真似では勝つことができないと考え、50ccの簡易エンジンを独自に開発して『スパー・カブ』を作り上げた。世界中の人に親しまれたこのオートバイは、本田氏の独創性と努力の結晶だったのである。本田氏は、社長の座をおりと、社員と名のつく人全部会って握手してやりたかったという念願を果たすために、日本国内だけで七カ所、海外を含めると何万人という人に「ありがとう」といって、一人ひとりの手を握ったそうである。そのために2年以上もかかったというのです。何というスケールの大きい人なんだろう。何という社員思いの人なんだろう。社員の人命がなんぼろうという気持ちに自然となったことと思います。独創性と努力、感謝と信頼の中で生まれてきたホンダの製品はともて魅力を感じます。いつかまた、ホンダがF1にもどってくださることを願いつつ愛車プレリウド（ホンダの車）を乗り回している私です。

(小山小)

# 合唱部と花だんづくり

牛越 雅紀

今年からこの上高井にお世話になりました。合唱部の顧問を、ということで、部員たちと対面したら、部長をはじめ女子ばかり九名。さて、どうしたものか…。

まずはチームワークづくりと、練習前の清掃と花だんづくりをはじめた。清掃はたった九名で、しかも全校にわかるように効果的にするために音楽室と職員玄関、その廊下を磨くことにした。花だんは去年、きゅうりをつくっていたという畑を無断借用した。清掃は登校の早い教頭先生にほめていただき機嫌をよくして取り組んだ。花だんには、サルビア・マリーゴールド・ペゴニアなど種からおこし毎日水をくれ、草取りをした。夏になりコンクールが近づき、一年生を加えた十四名は

練習に熱がはいってきた。私は生徒たちに練習させておいて、花だんで草取りをした。草を取りながら聞こえてくる歌声に耳を傾け、「花っていいなあ」と思った。

三年生の引退。花だんの前で写真を撮った。小さい部だけれど優しい心の集う、そんな部になってきたようであんな部にならなかった。

彼女らは毎放課後職員室の前でさよならの歌を歌う。

お互いに今日もいい日だったね

そんな話をしながら

家路をたどる

今二年生中心にクリスマスマスの曲を練習している。来年はチューリップを咲かすのだという。美しい花のようにすくすくと育て、乙女らよ。(墨坂中)

# ある看護婦さんとの話

倉田みゆき

長男が生後四ヶ月で「軽度アトピー性皮膚炎」と診断されてから、治療に足しげくT病院に通院した。アレルギーに詳しいという評判の優しいA先生。しかし、ぬり薬で一たん良くなった症状が、梅雨時からぶり返し、更に大きく丘状に広がる湿疹に頭を悩まされた。再度治療のため、

通院することになったが、今度は二回目ということもあってか、先生から「食事制限をしてアレルギーの源を見つけましょう。」と言われてしまった。

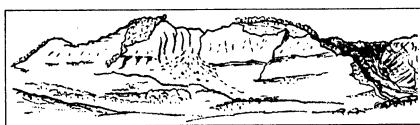
母乳のため、私が一週間毎に、卵類・牛乳類・豆類の一種類ずつを完全に除去して食事し、症状の変化をメモして

いく。この除去食たるや、「こんな物まで？」と思う程幅広く、その期間はご飯・魚・野菜が主の生活。色々な面で負担がかかる訳である。そこまではする必要があるのであるか、と何となく納得できないモヤモヤした気持ちでいる私の前に、看護婦さんが一人やってきた。「先生からお話しいたと思いますが、それについてお母さんはどうお考えですか。」と、話を切り出された。そ

(井上小)

# 須高の山と川③

青木 廣安



# 変わりゆく雁田山

雁田山は七五九・四mの火山で、山麓に豊かな湧水群をもつ。「せせらぎ緑道」はこれらの湧水を集めて流れる小川がせせらぐ山の辺の道で、小布施の原風景の一つをなす。赤瓦(あかはげ)地籍には旧石器が出土し、蟹沢湧水群には縄文土器が表採できる。また、清水端地籍から弥生式

土器が出土し、沢入尾根や山麓には古墳が五十基を超える。中世には『吾妻鏡』に元暦元年(一一八四)狩田郷が初見し、浄光寺薬師堂改築の際、応永十五年(一四〇八)の墨書が発見された。山頂・山稜には滝の入、大城・小城、二十端城跡が残り、中世では福島正則公霊廟があるなど、野外博物館ともいえる歴史の宝庫。

スケッチは、高井荒井原から眺めた雁田山南麓。採石が進み、現代の略奪的開発が姿をむき出しにしている。中央に平成四年の崩落が見える。山腹中辺に帯状に火砕流層があり、熱変成を受けて赤紫に変色し、不透水層となって地下水をにじませている。類似層が三層ほどみえ、三、四回の噴出を推定させる。右端駒場の凹地形は水蒸気爆発の火口跡といわれ、山腹は急崖である。